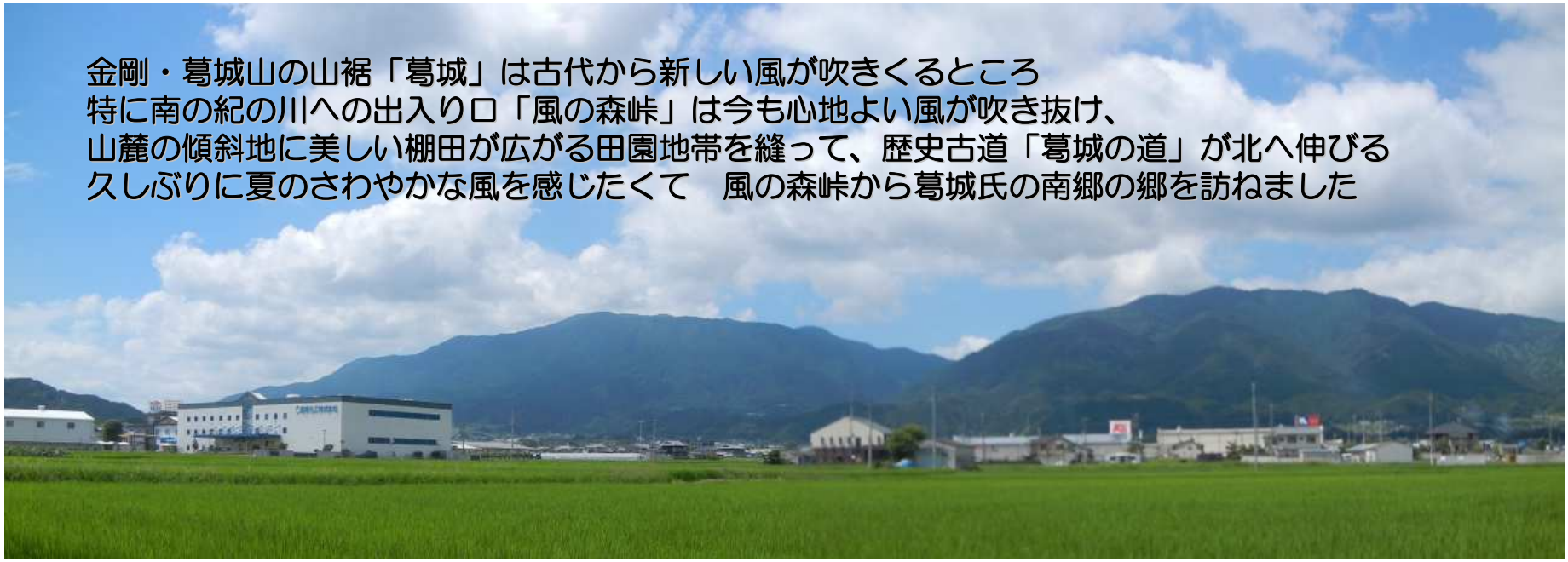
≪Iron Road・和鉄の道で≫

風の森峠から南郷へ　金剛山東山麓　葛城の道walk　2015. 8. 23.

古代葛城氏の生産工房が眠る美しい棚田が広がる田園地帯　　さわやかな夏の風を感じたくて



御所市葛城川岸より　金剛山麓葛城の道　南郷を遠望



御所市室周辺より　中央に河内へ抜ける水越峠　左：金剛山　右:葛城山　　2015.8.23.





国道24号線西寺田で　左: 南 風の森峠・五条紀の川へ　右: 北 葛城山・二上山山裾から大和川竜田越へ

奈良盆地南部「葛城」は古代から　大陸・朝鮮半島の交流拠点　その流入口を眺める



風の森峠から南郷へ　金剛山東山麓　葛城の道

金剛・葛城山麓の丘陵地に　こんなに数多くの棚田が整然と並ぶ美しい田園地帯があり、
この地周辺は日本でも一番早くに数多くの水田が広がった地(弥生前期　中西遺跡)
また、この丘陵地の中を葛城古道が南北に抜けてゆく。
南の入口　風の森峠から　心地よい風　新しい風か吹き抜けてゆく

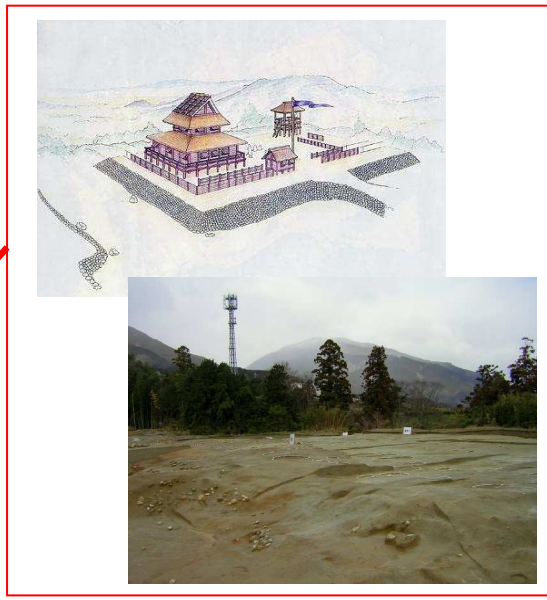
ここは　古代の鴨族・葛城氏の発祥の根拠地でもあった


金剛山東山麓
高天原
高天彦神社
高天
風の森峠
鴨神
高鴨神社
伏見
葛城の道
極楽寺
葛城氏祭殿
極楽寺ヒビキ遺跡
北窪
大東
南　郷
安田
井戸
葛上中学
佐田
下茶屋
国道24号線
葛城川
名柄
N
Image Landsat
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO
Google

5世紀葛城氏の南郷生産工房群(南郷集落遺跡群)



葛城氏の祭殿跡　極楽寺ヒビキ遺跡



葛城氏の南郷生産工房群

●「葛城の王」の「高殿」「祭殿」と導水施設
　極楽寺ヒビキ遺跡・南郷安田遺跡・南郷大東遺跡
●武器生産をおこなった特殊工房
　南郷角田遺跡
●大型倉庫群
　井戸大田台遺跡
●手工業生産を指導した朝方（中間）層の居住地
　南郷柳原遺跡・井戸井柄遺跡
●鉄器生産・玉生産・窯業生産・ガラス生産などの
　一般住民層居住地
　下茶屋カマ田遺跡・南郷干部遺跡・南郷生家遺跡・
　南郷田鶴遺跡・佐田柚ノ木遺跡・佐田クノ木遺跡・
　林遺跡・井戸池田遺跡
●土器棺墓からなる一般住民の墓地
　南郷丸山遺跡・南郷岩下遺跡
など





御所市の寺田からバスに乗って国道24号線を
南の風の森峠を目指す　　2015.8.23.



南の風の森峠周辺から流れ下る葛城川　2015.8.23.



御所からバスで約15分　葛城川に沿って　紀の川水系との分水嶺　風の森峠まで　国道24号線を遡る

金剛山の傾斜地に広がる田園が美しい　2015.8.23.



車窓から眺める金剛山の山並み　　2015.8.23.

葛城の道は金剛山の山裾　田園が広がる傾斜地の一番上の所です





葛城川・大和川水系「葛城」

紀の川水系と大和川水系の分水界風の森峠　2015.8.23.



吉野川・紀の川水系「五条」



風の森峠・鴨神から葛城の道を南郷へ

金剛山の斜面に美しい棚田が広がる田園地帯



このあたりが日本で早くから水田稲作を始めた地といわれ、金剛山から吹き下ろす風が強く、五穀豊穣と風水害をさけるために風の森峠の頂上の森に風の神　志那都比古神を祭った(風の森神社)。このことから　このあたりを「風の森」と言うそうだ。
ただし、地名も「風の森」という森も実際にはない。
また、この風の森周辺は「鴨神」といい、鴨族の本願の地であることから「鴨神」の地名が生まれたようだ。



風の森峠から西へ金剛山麓の傾斜地へ登る急坂　2015.8.23.
登り口に高鴨神社・風の森の標識が立っている



鴨神への急坂と暑さにばて気味　前は稲穂と空だけ、登り切れば　きっと・・・　2015.8.23.

で





喘ぎながら登り切るとパッと視界が開け、緑の棚田が目に　　2015.8.23.
南正面には吉野・紀伊の山並み　畔に座り込んで　紀伊からの風の臭いを楽しむ　前にここを歩いたときは　強い風が吹き抜けていましたが　今日は暑い。
でも座り込んでいると心地良し



北側は金剛山の傾斜地に広がる田園　葛城山があんなに小さく　2015.8.23.
葛城の道は　鴨神へは左に折れて　金剛山の山裾へ登ってゆく



この「風の森」の石柱は奥の高鴨神社への道を示すものと思っていましたが、
風の森峠の頂上にある風の森神社への入口を示す案内と後で知りました。



風の森峠の坂を登りましたが、この鴨神地区の金剛山山裾の斜面地はまだまだ上まで、
点々と棚田と集落が点々と広がって、美しい緑の景色を作っています　　2015.8.23.



葛城の道　風の森･鴨神で　南の紀の川方向を眺める





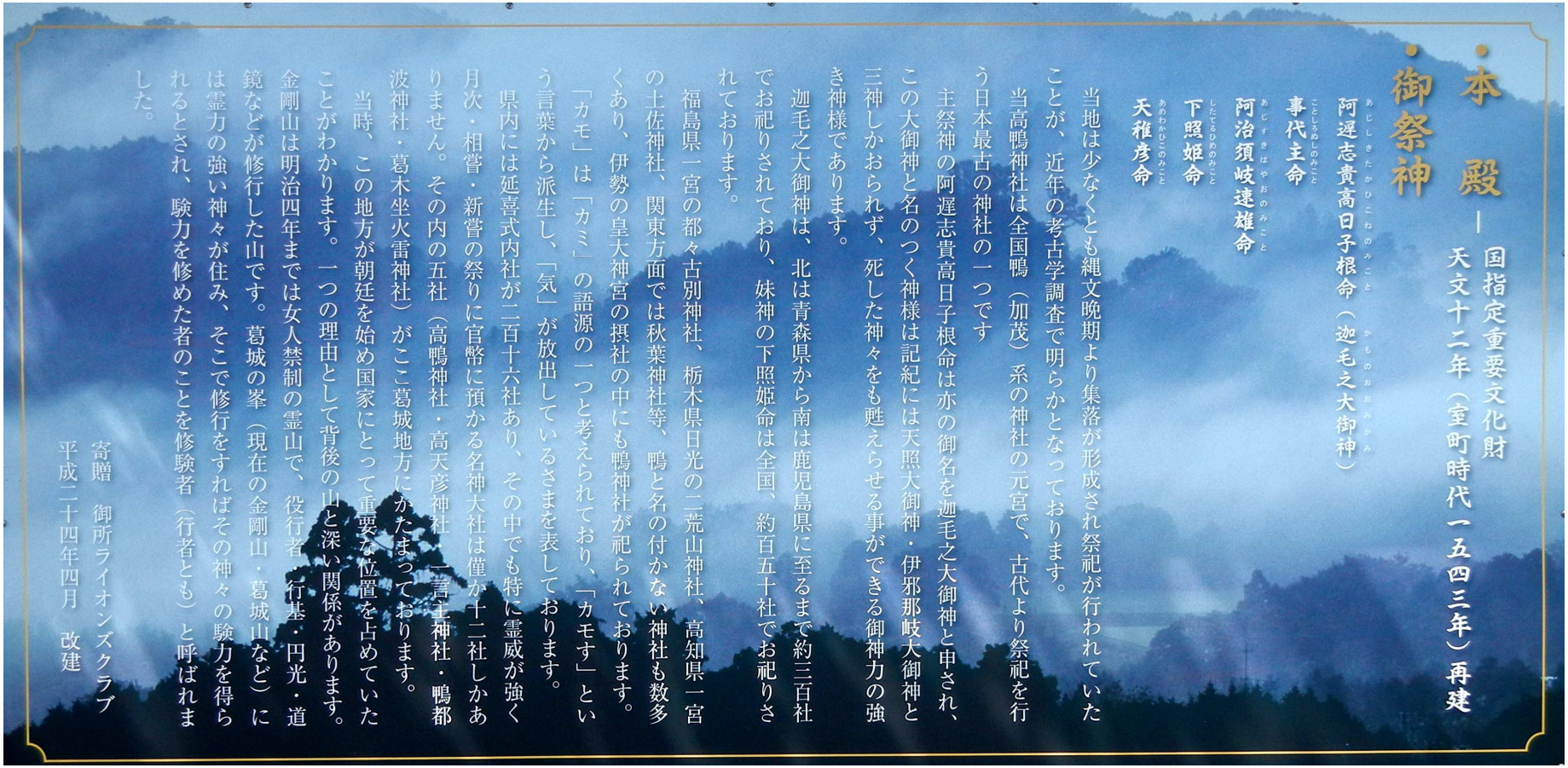


広い道路との交差点を北に折れると向こうに赤い鳥居のある高鴨神社の森が見える　2015.8.23.



高鴨神社　正面　2015. 8. 23.　　久しぶりに鴨族の守り神　高鴨神社の前に立つ





この鴨神は鴨氏一族の発祥の地であり、高鴨神社はその氏神として祀られたものである。
京都の上賀茂神社、下鴨神社の本家にあたる由緒正しい神社。
本殿は三間社流造りで、国の重要文化財に指定されている。
祭神は天孫降臨神話の国譲りに登場する大己貴命（大国主命）の子で迦毛大御神とも称され、
「葛木の鴨の神奈備」に座し、皇孫の守護をした神。
鴨氏はこの丘陵から奈良盆地に出て、葛城川の岸辺に移った一族が鴨都波神社を、東持田に移った一族が葛木御歳神社を祀った。後に、高鴨神社を上鴨社、御歳神社を中鴨社、鴨都波神社を下鴨社と呼ぶようになった。



鴨神　高鴨神社で　2015.8.23.


鴨神　高鴨神社で　2015.8.23.


鴨神　高鴨神社で　2015.8.23.



葛城の道で　2015.8.23.



鴨神と伏見地区を隔てる谷を渡る。
この上にもう1つ金剛山・葛城さんの斜面地の一番上を南北に走る県道があり、
その橋が見えている。



谷を渡って　北の伏見地区に入ると　奈良盆地が遠望される
御所の巨勢山の向こうに畝傍山が見えている　葛城の道　伏見で　2015.8.23.



葛城の道　伏見より　傾斜地の上より奈良盆地を眺める　　2015.8.23



クローズアップすると奈良盆地の中を北に走る京奈和自動車が盆地の中央に見える。

2015.8.23.葛城の道　伏見で



葛城道の案内板が伏見の四辻にも立っていました　2015. 8. 23.



葛城の道　傍らでは　もう　コスモス　秋を運んできていました　2015. 8. 23.



金剛山山裾に沿って傾斜地の上部に続く葛城の道　古墳時代にはもうあったという古道
まもなく実りを迎える田園の中を随分高いところを南北にのびている　　2015. 8. 23.



振り返る南吉野・紀の川側　美しい棚田の向こうに大峰の山々が連なる
2015.8.23.　葛城の道　伏見で





葛城の道は伏見で一段上の県道へ上がりさらに北へ



金剛の枝尾根をまた一つ越えると高天原　高天彦神社への入口　2015.8.23.



傾斜地の一番上にある高天原へ
心地よいwalkですが、暑くて汗だくだく
膝も悲鳴を上げはじめた



葛城の道　高天原に向かって急坂の道　　2015.8.23.
一番高いところにある神話の里へ　正面奥が金剛山山頂



葛城の道　高天原の直ぐ下　傾斜地の一番上　ここにも棚田が広がって　美しい景観　2015.8.23.



人家が見えたので　高天はすぐかと思いましたが、道は山中に　まだまだ奥　2015.8.23.
葛城の道　高天原　　奥に高天彦神社参道の入口が見える


高天原伝承地
古事記神話に記されている高天原については諸説がありますが、この御所市の高天も、古来より神話の世界である高天原の伝承地
高天彦神社
老杉の茂る参道の奥、「白雲峯」と呼ばれる背後の美しい円錐形の山をご神体とする。
古代豪族、葛城氏の最高神で、記･紀神話の中で、出雲へ国譲りのための使者を命令した高皇産霊神（たかみむすびのかみ)が祭神。その孫が高天原から地上へ天降った瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）です。
また、神社東方には「蜘蛛窟」が残る。巨大な土蜘蛛が住んでいた場所とも、千筋の脚があった土蜘蛛が埋められた跡ともいわれるものだ。『日本書紀』には、この土蜘蛛伝承から“葛城”という地名が生まれた経緯が語られている。
高天彦神社参道入口　車道は右奥へと続いています　2015.8.23.
ここで　ついに水切れ　きつい　座り込んで　下をしばし眺める
少し登りましたが、まだ　南郷を歩かねばならないしと　ここで　下ることに





高天彦神社

御所市高天

御祭神　高皇産霊尊（たかみむすびのみこと）

由緒　天照大神の子の天忍穂耳尊（あめのおしほみみのみこと）に本社の御祭神の娘、栲幡千々姫（たくはたちぢひめ）が嫁ぎ、御子の瓊々杵尊（ににぎのみこと）が高天原から降臨される。その神話に言う高天原がこの台地である。

御祭神を祖神とした葛城族は、大和朝廷に先行する葛城王朝を築き、亡びた後も平群・巨勢・蘇我の豪族として栄えた。

延喜の制では、名神大社に列し、月次・相嘗・新嘗には、官幣に預ってきた神社である。



インターネットより写真採取



高天原へ登る車道　2015.8.23.



高天彦神社参道前から眺める奈良盆地遠望　2015.8.23



高天彦神社参道前から眺める吉野・大峰の山々　遠望　2015.8.23





高天からまっすぐ極楽寺集落の県道へ降りる　2015.8.23.





元の県道まで戻ると県道野の西側に極楽寺が見える　2015.8.23.
この県道すぐ近くが葛城氏の祭殿が出た極楽寺ヒビキ遺跡　いまはどうなっているのだろうか?



葛城氏の居館・祭殿が出土した極楽寺ヒビキ遺跡は正面鉄塔の手前すぐ下の南郷を見下ろせる高台
寒い寒い1月の朝　凍えそうになりながら発掘現場を見学した記憶がある。　2015.8.23.



道は鉄塔の見える森をまきながらの下り坂。長い下り坂　右手の標識には「南郷」。すぐ横に先ほど見た鉄塔。
残念ながら　ヒビキ遺跡の中へは行けませんでしたが、坂の正面には、また視界が開けている





葛城の道より　すぐ直下の南郷の田園地帯を見下ろす　　2015.8.23.

南郷の傾斜地の一番下の国道24号線に近い下茶屋周辺が見えている

南郷の丘陵地の主要部は見えていないが、 左奥に大和三山　右奥に室・宮山古墳が見えている



葛城の道から外れ、井戸・佐田の集落へ入る手前の道から、東へ南郷の田園地帯へ降りてゆく。
よく整備された段々の田園地一帯はかつて、葛城氏の生産工房に関係した南郷集落群があった。
今はぽつぽつ集落が点在する中　美しい棚田　緑の田園が広がっている。
久しぶりにこの中を歩く。
2015.8.23.

葛城氏の南郷生産工房群

●「葛城の王」の「高殿」「祭殿」と導水施設
　極楽寺ヒビキ遺跡・南郷安田遺跡・南郷大東遺跡
●武器生産をおこなった特殊工房
　南郷角田遺跡
●大型倉庫群
　井戸大田台遺跡
●手工業生産を指導した親方（中間）層の居住地
　南郷柳原遺跡・井戸井柄遺跡
●鉄器生産・玉生産・窯業生産・ガラス生産などの一般住民層居住地
　下茶屋カマ田遺跡・南郷千部遺跡・南郷生家遺跡・南郷田鶴遺跡・佐田柚ノ木遺跡・佐田クノ木遺跡・林遺跡・井戸池田遺跡
●土器棺墓からなる一般住民の墓地
　南郷丸山遺跡・南郷岩下遺跡
など





金剛山をバックに美しい棚田が広がる南郷の田園　2015.8.23.


美しい棚田が広がる南郷の田園で　2015.8.23.


美しい棚田が広がる南郷の田園で （合成photo） 2015.8.23.



美しい棚田が広がる南郷の田園の畦道で　2015.8.23.



美しい棚田が広がる南郷の田園の畦道で　2015.8.23.



棚田が広がる南郷の田園の夕暮れ　水越峠をながめる　2015.8.23.



棚田が広がる南郷の田園の夕暮れ　棚田の郷をゆったり野焼きの煙が流れてゆく　2015.8.23.



金剛山をバックに美しい棚田が広がる南郷の裾を流れる葛城川　2015.8.23.



御所市室周辺より　中央に河内へ抜ける水越峠　左：金剛山　右:葛城山　　2015.8.23.

「葛城」は古代から新しい風が吹きくるところ
心地よい風が今も吹き抜ける

夏のさわやかな風を感じたくてのwalk
金剛山の丘陵地に広がる美しい棚田群を
心地良い風が郷を吹き渡る風の森・風の郷

帰りには　今回も野焼きの煙が棚田の郷に漂い
郷の夕暮れを演出する

久しぶりの風の森・葛城道
足の向くまま　気の向くまま
多少　ばててしまいましたが、
これぞ風来坊の醍醐味

心地よいバスに揺られながら　　**2015.8.23.夕**



風の森峠から南郷へ　金剛山東山麓　葛城の道walk　2015. 8. 23.



御所市葛城川岸より　金剛山麓葛城の道　南郷を遠望

古代葛城氏の生産工房が眠る美しい棚田が広がる田園地帯
古道が通る素の郷を吹き抜けるさわやかな風とあそびながらの楽しい**walk**でした

参考　和鉄の道･Iron Road

1. 金剛･葛城 山麓 葛城氏の鍛冶工房「忍海」　渡来人が住み鉄鍛冶の技術を伝えた古代「忍海　2005.2.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/5iron05.pdf
2. 古代　大和への道【4】 古代「紀路」紀ノ川の流れに沿って大和へ　Country Walk　2007.7.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron15.pdf
3. 「大和平野は弥生時代のはやくから　大穀倉地帯だった ???」
   国内最大級弥生時代前期の水田跡2千枚が出土?御所市 中西遺跡　　2011.11.25.
   高い計画性と技術は大和の国力の源泉
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron16.pdf



